

ご挨拶

第 16 回日本周産期メンタルヘルス学会学術集会大会長
千葉大学社会精神保健教育研究センター特任教授
医療法人学術会木村病院院長
渡邊博幸

このたび、第 16 回日本周産期メンタルヘルス学会学術集会を、主催いたします、千葉大学社会精神保健教育研究センター／医療法人学術会木村病院の渡邊博幸と申します。

今日、周産期メンタルケアに医療界内外からも多くの関心が向けられています。児への養育不全、虐待、妊産婦の自殺といった痛ましいニュースは後を絶ちません。さらに、生殖医療技術の進歩や子育ての多様性に即した心理社会的支援の開発、妊娠や授乳における向精神薬の影響と最適化など、たくさんのアンメットメディカルニーズが生じています。これらの課題の解決には、産科医療、小児科医療と精神科医療、母子保健と精神保健等の集学的な研究、施策の立案、研修・教育、実践、評価と改良という、弛まぬ研鑽が必要です。

日本周産期メンタルヘルス学会は、2003 年に日本周産期メンタルヘルス研究会として発足し、その後 2014 年 11 月に名称変更とともに学会として改組し、年に一回学術集会を開催しております。今年で第 16 回を迎える日本周産期メンタルヘルス学会学術集会は、この領域における、様々な職種、立場の第一人者が一同に会し、上述のテーマについて、最新の研究成果と先駆的な実践を披瀝し、語り、切磋琢磨する場であるとともに、多彩なネットワークを結ぶ連携構築のハブ機能も果たしています。また、初学者や新たに参加する方々にとっても、周産期のメンタルヘルスに対する関心や理解度を高める上で大変有益であると考えます。

参加者の皆様にとって魅力的かつ有意義な学術集会となるよう、実行委員会、プログラム委員会を中心に鋭意準備を進めております。至らぬ点多々あるかと存じますが、学会員の皆様はもちろんのこと、ぜひご所属先の方々にもお声をかけていただき、多数のご参加を賜れば幸いです。心よりお待ち申し上げます。